

**This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

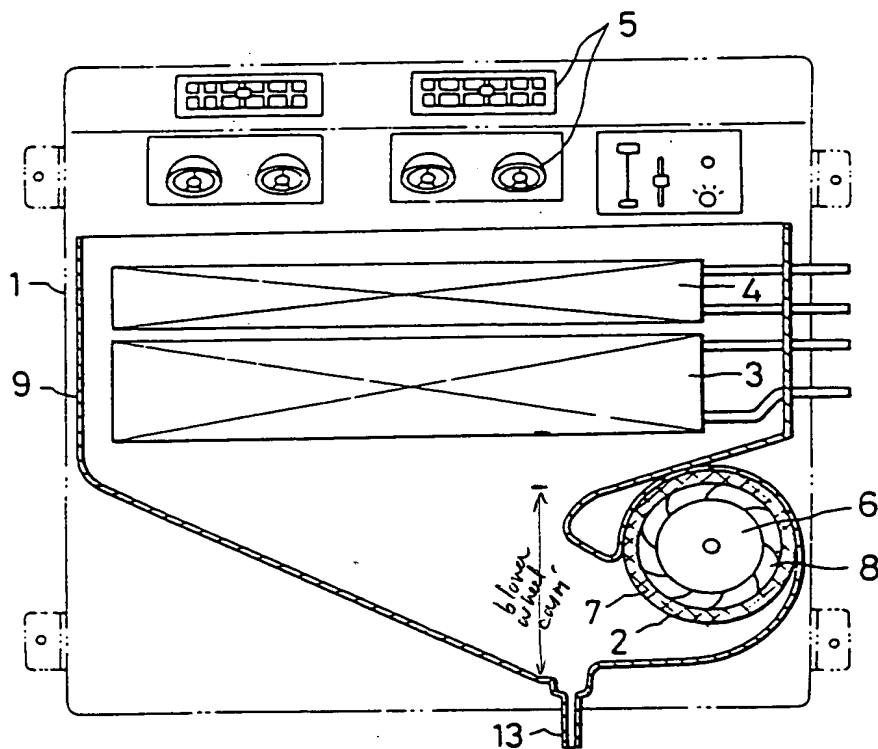
- **BLACK BORDERS**
- **TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- **FADED TEXT**
- **ILLEGIBLE TEXT**
- **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- **COLORED PHOTOS**
- **BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS**
- **GRAY SCALE DOCUMENTS**

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

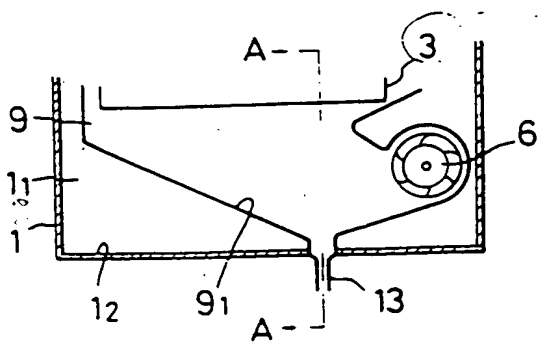
**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

56-149819

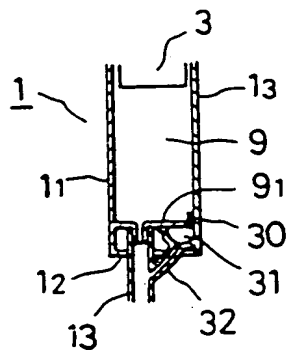
第1図



第2図



第3図



實用新案登録出願人 子セル機株式会社

JP-U-56-149819

Within a case (1), an evaporator (3) is disposed at an upper side of a blower (6), a heater core (4) is disposed at an upper side of the evaporator (3), and air outlets (5) are provided at an upper side of the heater core (4).



実用新案登録願 (B) 後れおれ

昭和55年4月10日

特許庁長官 川 原 能 雄 殿



1. 考案の名称

フリガナ クワ キチヨウワ ソウ ナ
空気調和装置

2. 考 案 者

フリガナ
住 所

オオサトクンコウナムラオオサセンタイアサヒガシハラ
埼玉県大里郡江南村大字千代字東原39番地

フリガナ
氏 名

ディーゼル機器株式会社江南工場内
ヤナギ サワ ヨシ カズ
柳 沢 義 一

3. 実用新案登録出願人

フリガナ
住 所

フ ヤ ク フ ヤ
東京都渋谷区渋谷3丁目6番7号

フリガナ
氏 名(名称)

ディーゼル機器株式会社

モテ ソメ カズ シゲ
代表者 望 月 一 成

(国 籍)

4. 代 理 人

人 千 / 07

住 所

東京都港区赤坂1丁目1番地17号

細川ビル1009

宮園国際特許事務所内

TEL (586) / 473 代表

氏 名

(8029) 弁理士 宮 園 純 一

5. 添付書類の目録

- (1) 明 細 書 1通
- (3) 願 書 副 本 1通

- (2) 図 面 1通
- (4) 委 任 状 1通

明 細 書

1. 考案の名称

空気調和装置

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 一方側が開口するケース本体と、この本体の開口部を塞ぐ蓋体とより、ケースを形成し、このケース内に収納された送風機、エバポレータを包囲するドリップパンを、ケース本体の内面側より蓋体の内面側方向、又は蓋体の内面側よりケース本体の内面側方向に突出して、送風機、エバポレータとともに囲繞する枠材と、ケース本体及び蓋体の内面側とで得られる空間により形成したことを特徴とする空気調和装置。

(2) 枠材のケース本体との接合部又は蓋体との接合部を被う樋部を設け、この樋部を介して上記接合部よりにじみ出た凝縮水を外部に放出するようにした実用新案登録請求の範囲第1項記載の空気調和装置。

(3) 樋部は蓋体と一体である実用新案登録請求の範囲第1項記載の空気調和装置。

3. 考案の詳細な説明

本考案は空気調和装置、特に送風機から送風される空気の流路を破うドリップパンに関するものである。

第1図に示すような空気調和装置においてケース1の内部には上部方向に沿って順次吸気口2、エバポレータ3、ヒータコア4、エヤ吹出口5及び送風機6が設けられ、上記吸気口2にはフィルタ7が固定され、このフィルタ7に対応する個所に送風機6のファン8が位置される。上記送風機6、エバポレータ3、ヒータコア4は一体にはほぼ全体がケース1内に収納されたドリップパン9で被われ、このパン9の下端からはドレーンパイプ13が突出する。パン9の送風機6が対向する下部はドレーンパイプ13の方向に傾斜している。

しかしながら、以上の構成によれば、エバポレータ3等をパン9内に組込んだ後パン9をケース1に組込むようにして装置として組立てるので、組立作業が繁雑となり、しかもエバポレータ等を組込む際パン9が損傷してクラックが発生し、こ

の部分から凝縮水が漏れるという欠点を有する。

従つて、本考案の目的はドリップパンとして、ケースを構成するケース本体と蓋体との間にエバポレータ等を囲繞する枠材を介在させるようにして形成し、この枠材とケース本体又は蓋体との接合部よりにじみ出る水分を好適に処理するようにして上記欠点を除去するものであり、以下実施例を用いて詳細に説明する。

第2図、第3図は本考案による空気調和装置の一実施例を示す一部平面図及び断面図であり、第1図と同じものは同一符号を用いている。

この場合、ケース1は外枠1₂を有し、かつエバポレータ等の収納空間が設けられたケース本体1₁と、このケース本体1₁の開口部を塞ぐ蓋体1₃より形成される。ケース本体1₁の内面側にはドリップパン9を形成する枠材9₁が突出しており、この枠材9₁はケース本体1₁を例えばインジェクション成形する際同時に成形される。このようなドリップパン9は、枠材9₁の開口部をケース1の蓋体1₃により塞いで形成するもので、

蓋体 1、の内面側と枠材 9、との間にはシール材 30 が介在され、これでドリップパン 9 の気密性を保持する。蓋体 1、の内面側からはシール材 30 の間隙を介してにじみ出る凝縮水を收容する樋部 31 が設けられ、この樋部 31 は U 字状となり、先端が枠材 9、の外側面に接する如く成形されたもので、枠材 9、の全周に沿つて、あるいは枠材 9、の下部側に沿つて形成され、この樋部 31 の下部からは排水用のドレインパイプ 32 が突出し、このパイプ 32 の端部はドレインパイプ 13 に接続されている。

以上の構成によればエバポレータ 3 より滴下する凝縮水はそのほとんどがドレインパイプ 13 を介して外部に放出される。また、その一部がシール材 30 の間隙部分を介してにじみ出たとしてもこの水は樋部 31 に収納された後ドレインパイプ 32 からドレインパイプ 13 を介して外部に放出されるので、ケース 1 の外表面を常に清浄な乾燥状態に保つことができる。本考案によれば送風機 6、エバポレータ 3 等をケース本体 1、内に設置

した蓋体 10 を取付けるだけで装置として組立てることができるので、従来のようにドリフパンに送風機等を組込むという複雑な手間を要せず、組立工数を低減でき、しかもコストを低くでき、また、ドリフパン 9 が損傷する恐れがなくなる。また、枠材 9 をケース本体 1 と一体化することにより、枠材 9 の組込み作業を省略でき、さらに組立工数を低減できる。

ここで、本実施例において、ドレーンパイプ 32 はドレーンパイプ 13 と一体化するものとして説明したが、一体化することなく独立してもよい。また、このドレーンパイプ 32 の端部をドレーンパイプ 13 に設けた孔に挿入するようにしてもよい。また、蓋体 10 の内面側に枠材 9 を設け、この枠材 9 とケース本体 1 の内面側とをシールを介して接合し、この部分を樋部で被うようにしてもよい。

以上説明したように本考案によれば、ケース本体と、この本体の開口部を塞ぐ蓋体とよりケースを形成し、このケース内に収納された送風機、エ

エバポレータを包囲するドリフパンを、ケース本体の内面側より蓋体の内面側方向又は蓋体の内面側よりケース本体の内面側方向に突出して送風機とエバポレータとを共に囲繞する枠材により形成するようにしたので組立工程の簡略化を図ることができる。

4 図面の簡単な説明

第1図は、従来の空気調和装置の一例を示す簡略構成図、第2図、第3図は本考案による空気調和装置の一実施例を示す簡略構成図及び断面図である。

1 … ケース、11 … ケース本体、12 … 蓋体、3 … エバポレータ、4 … ヒータコア、6 … 送風機、9 … ドリフパン、91 … 枠材、13、132 … ドレーンパイプ。

実用新案登録出願人

ディーゼル機器株式会社

代理人

弁理士 宮 岡 純 一